

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	浸潤性膵管癌切除後の残膵再発に対する再切除の意義の検討
	研究目的	<p>近年の Multi detector-row CT(MDCT)を含めた画像診断技術の飛躍的な向上により、膵切除後残膵の異時性再発症例に遭遇する機会が増加し、また早期診断も可能となってきた。一般的には浸潤性膵管癌の再発病変は外科的切除の適応とはならない。しかし残膵単独再発に対しては外科的再切除を考慮することもあり、単施設からの少数例の検討では切除後の予後が良好であったとの報告もある。しかしながら、現在までに、膵切除後の異時性残膵再発症例に対する外科的切除が予後に寄与するか否かの大規模かつ詳細な検討はいまだになされていない。</p> <p>以上の背景を勘案し、全国多施設から症例集積を行い、残膵再発の治療方針を検討する後方視的観察研究を計画した。本研究は、名古屋大学を総括施設とした日本肝胆膵外科学会のプロジェク研究であり、日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医修練施設の多施設共同研究として実施するものである。</p>
	研究期間	2016年10月6日から2019年3月31日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	研究責任者	森永聡一郎
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科(肝胆膵)
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし